

‘紅まどんな’の果皮障害軽減技術

カルシウム剤の3回散布により果皮が強化されるため、果梗部のクラッキング発生割合が低下する。なお、糖度・クエン酸含有量などの果実品質には影響を与えない。

試験区

供試樹：紅まどんな
(18年生・雨よけハウス)
供試剤：セルバイン
(白石カルシウム株式会社)
散布濃度：300倍
散布方法：樹別散布
経費：1,500円/10a/回

散布時期

試験区	散布日
処理区	6/22、7/12、8/2
無処理区	無散布

20日間隔を目安に散布

糖度・酸度

注)調査日:12月5日

試験区	糖度(Brix)	クエン酸(g/100ml)
処理区	11.9	0.82
無処理区	11.9	0.76

セルバイン処理は糖度・クエン酸含有量に影響を与えない。

果梗部周辺に亀裂(クラッキング)が生じる



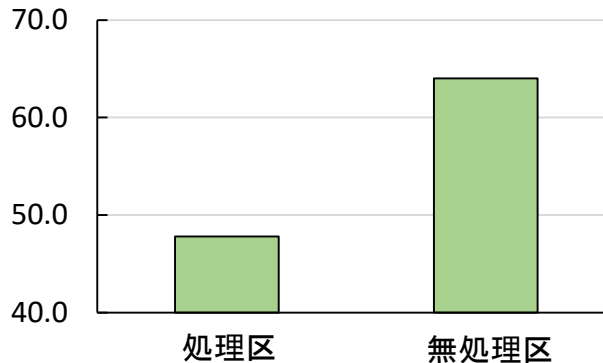
亀裂部に雨水が侵入



果皮黒変が生じる

果皮障害

クラッキング発生割合(%)



6月下旬～8月上旬のセルバイン3回処理でクラッキング発生割合が低下する。

果皮色

試験区	果皮色(a値)
処理区	26.8
無処理区	26.7

注)調査日:12月5日

処理区



無処理区



カルシウム剤散布で見られる白斑はあまり目立たない

セルバイン処理より着色遅延は生じない。